

「篠川小・中学校の三味線伝承活動の取組」

1 学校名

瀬戸内町立篠川小・中学校

2 学年・人数

[小学校] 2年生から6年生(13人) [中学校] 2年生(1人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時

毎月1回, 創意や総合的な学習の時間に練習を行っている。

(2) 発表の日時・場所

ア 豊年祭・・・今年度は中止 令和2年9月27日(日) 地区公民館

イ 高齢者表敬交流会

令和2年10月10日(土) 学校体育館(例年は地区コミュニティーセンター)

ウ 学習発表会 令和2年11月1日(日) 学校体育館

エ 瀬戸内町子ども島口・伝統芸能大会・・・今年度は中止

令和2年11月14日(土) 町きゅら島交流館

4 伝承に取り組んでいる伝統文化について

(1) 名称 三味線「三線(さんしん)」

(2) 由来

昭和50年ごろまで, 集落で三味線・島唄のできる人はごく限られていた。当時, 中央公民館で, 三味線・島唄教室が開かれており, 集落からも5人の受講者がいた。昭和53年, 篠川小中学校は創立100周年を迎えた。その記念式典において, 受講者たちが三味線・島唄3曲を発表した。そのときの発表がきっかけとなり, 創立100周年記念事業資金の一部で三味線を10竿購入し, 昭和55年から児童生徒への指導が行われはじめた。

(3) 構成等 三味線とチヂン

5 地域との連携

当初, 学校職員が指導を行っていたが, 次第に受講者たちも指導に協力するようになった。平成3年, 瀬戸内町の社会教育大会が古仁屋小学校体育館で行われた際, そのオープニングの三味線合奏を篠川校の児童生徒が行った。さらに, 平成14年頃からは中学校の音楽教師を中心に, 地域の指導者及び子ども会も協力して, 本格的に島唄・三味線の指導が行われるようになり, 現在に至っている。

6 伝承・活用の取組の工夫点

毎月1回、集落の指導者3人を招き、三味線・島唄の練習を行っている。また、地区センターにおいて、子ども会の保護者らによる指導も行われており、町の子ども島口・伝統芸能大会へも積極的に参加している。

7 取組の様子



練習の様子 1



練習の様子 2



高齢者表敬交流会での発表



学習発表会での発表

8 参加児童，保護者，教職員の感想等

(1) 参加児童（小学5年生）

奄美大島の伝統芸能である三味線の練習ができるのは、たいへんよい機会である。祖父が三味線や島唄の指導をしているので、しっかりと練習して受け継いでいきたい。

(2) 保護者

地域との結びつきや世代間交流の面から、とても意義のある活動だと思います。子供たちにとって、三味線が地域への愛着につながり、将来、郷土への誇りや自分の支えとなってくれればよいと思う。

(3) 教職員

学校では、毎月1回の総合的な学習の時間において、定期的に練習を行っている。学校だけではなく、家庭においても積極的に練習を行っている。習得した三味線をいろいろな場で披露することにより、郷土に対する誇りや表現することへの自信を身につけつつある。